

会報 JAISA

ジャイサ

2022
春号
第70号



2022年2月24日・25日、大阪市マイドームおおさかにおいて「第19回 自動認識総合展 大阪」が開催されました。前回同様、感染症防止対策を講じて開催し、総来場者は1,132名となりました。ご来場の皆様、ご出展者、関係各位に御礼申し上げます。



JAISA 一般社団法人日本自動認識システム協会

会報JAISA 春号 CONTENTS

〈特集〉 第19回 自動認識総合展 大阪

展示会概要 / 開会式	P1
出展者紹介	P2～3
自動認識セミナー 大阪 基調講演	P4～6
セミナープログラム	P7
来場者アンケート	P8

第24回 自動認識システム大賞 ご案内 P9

2022年度 自動認識技術者資格認定講習・試験 ご案内 P10

バーコード/RFID/生体認証



自動認識の基礎知識セミナー

セミナー 講演時間

バーコード 105分	RFID 150分	生体認証 105分
---------------	--------------	--------------

誰でも参加でき、オンライン受講可能
新入社員や新任担当者に最適！

- 開催日：2022年4月27日(水)
- 場 所：当協会会議室 10:00～17:30
- 定 員：会場/20名、オンライン/20名

**受講料(税込)：一般 22,000円/人
会員 11,000円/人**

〈講師派遣によるセミナーを随時受付。人材教育・研修に最適。〉

*新型コロナウイルス感染症対策を充分に行い、参加者の安全に配慮して実施いたします。

講師派遣 オンライン

お客様のご要望により、講師派遣またはオンラインで個別に「自動認識の基礎知識セミナー」を実施いたします。
バーコード、RFID、バイオメトリックスのそれぞれを1講座として、2講座以上でお申し込みください。

一般社団法人 **日本自動認識システム協会**

お問い合わせ TEL: 03-5825-6651 Mail: jaisa_otoiawase@jaisa.or.jp





AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第19回 自動認識総合展 大阪

2022年2月24日、25日、大阪市マイドームおおさかにおいて「第19回 自動認識総合展 大阪」が開催されました。前回に続きコロナ禍での開催となり、来場者、出展者、関係者にご協力をいただき感染症対策を講じての運営となりました。来場者は2日間で1,132名でした。

2月24日の初日は、JAISA代表理事会長 小瀧龍太郎の開会挨拶に続き、経済産業省近畿経済産業局産業部製造産業課長 八田明洋様にご祝辞をいただき、来賓・参列者によるテープカットで展示会の幕が開きました。



経済産業省近畿経済産業局産業部製造産業課長 八田 明洋 様



JAISA 代表理事会長 小瀧 龍太郎

展示会場では、RFIDや画像認識などを活用した非接触、無人化のソリューションも多く展示される一方、会場と自社をオンラインでつなぐリモート展示を行うブースもありました。

出展者の中には、「来場者が少なく会場が寂しい」としながらも「はっきりと目的を持って来場される方が多い」、「非接触や省人化の運用に関心が高い」と具体的な商談に手応えを感じていました。



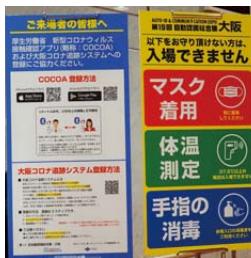
東芝テックはリモートで出展

フェニックスブース

展示会場内には、自動認識システム大賞受賞作品のパネル展示コーナーを設け、また、JAISAテーマ展示では＜SDGsを支える自動認識＞の事例やソリューションの動画を放映しました。



展示会場やセミナー会場での検温と手指消毒。搬入日から会期を通してコロナ感染症対策を実施。



展示会場入場受付(左)と感染症対策パネル(上)



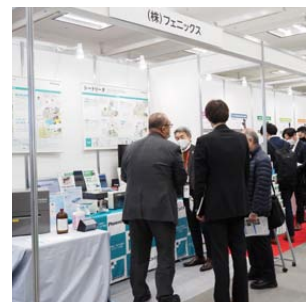
テープカット参列者(敬称略)
経済産業省近畿経済産業局産業部製造産業課長 八田 明洋 様
大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課課長補佐 岡 正人 様
大阪市経済戦略局産業振興部産業振興課長 松本 孝史 様
大阪商工会議所経営情報センター所長 湯谷 康文 様
一般社団法人日本自動認識システム協会代表理事会長 小瀧 龍太郎



開会式の後、展示会場を視察する来賓の皆様



東芝テックはリモートで出展



フェニックスブース



自動認識システム大賞受賞作品



JAISAテーマ展示



アイニックス株式会社

電子ラベル

電子ペーパー採用の無線表示ラベル。高解像度・高精細で視認性が高く、赤または黄のカラー表示が可能、書き換え速度が速くサイズも豊富。ペーパーレスを実現。主な用途は、店舗の棚札、料金表、POP表示ほか、倉庫の棚札、製造工場内のコンテナ、カゴ車、作業指示やカンバンとして導入が増加しているという。

来場者の反応はいかがですか。

「RFIDに対するお客様の反応が大きく、具体的なお要望をお聞かしています。自動認識展で当社は、電子ラベルをアピールしております。店舗では「ダイナミックプライシング」といった用途で使われますが、当社ではファクトリー向けに、紙から電子ペーパーへの入れ替えをご提案しています。作業指示やカンバンなどの用途で、工程が変わる度に紙の指示書を差し替えたり記帳している現場に、無線で指示内容をリアルタイムに書き換えることができる点や、LEDで視認性がよい点などを訴求しております。」

暗い現場があったりしますね。

「7色光るので、払い出しの棚では光る所をピッキングすることで作業効率が向上します。あるコンビニの配送センター様では、商品の入れ替えが早いために、棚札を変える頻度が高いので導入いただいています。」
「最近、そういった共同配送センターや倉庫業のお客様からの問い合わせが増えています。また、好評なのが複数のバーコードを一括読み取りできるソフトウェア＜MatrixScan＞で、入出荷管理や棚卸を効率化します。店舗や倉庫では、棚のバーコードを連続的に読み取り、商品検索や検品が可能です。」

展示会への出展は積極的です。展示会に期待することは？

「集客は大きなポイントではありますが、シーズンごとに来場者層に合ったソリューションを継続的に展示することが重要だと考えています。コロナ禍なので、特に実機をデモする機会を大切にしております。」
「自動認識技術を使用した機器とサプライ、ソフトウェアやシステムなどをワンストップで提供する会社、という当社の特徴をアピールしていきたいです。」



大阪営業所 部長 中谷 郁男 さん

株式会社 イメージャー

Android 搭載端末

イメージャーブースに並び、ハンディターミナル、モバイルコンピュータ、スマートデバイスで、Android搭載の端末に興味を示す来場者が多い。共通する特徴は、高速プロセッサ搭載で情報処理が速く操作性が向上。また大型ディスプレイで高視認性、しかも長時間稼働できる。Android OSの長期サポートなどの差別化をアピールする。

コロナ禍で、最近の商談に変化はありますか。

「今回の展示会でお客様のお話の中にはコロナだからという内容は見受けられません。コロナ禍の商談では昨年になりますが、コロナワクチン接種の会場で私共のスキャナを使っていたesisました。」
「昨夏、ワクチン接種が始まった時に、国から配布された機器が接種券の情報を読み取れない、などの報道があった際、同社のスキャナに対する高評価がネットなどにも流れ、問い合わせや引き合いが増加し、全国の病院やクリニック、官公庁に導入された。」
「現場では、「今日・明日にも持ってきてほしい」など急を要する依頼が多く、通常の売り方を変えて、社内で機器をセットアップして、現場でつなげばすぐに使用できる、といった対応を行っておりました。」
「はじめに現場に伺ってどのような仕組みで動いているかヒアリングをさせていただき、システムや仕様を確認して、なるべく分かりやすい製品で社内で調整を行い、納品しました。現場から使い方が分からない、などの問い合わせもほとんどありませんでした。」

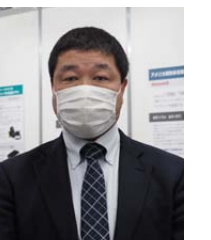


展示会に期待することは？

「私どもは基本的にパートナービジネスを行っており、ハネウエルの総代理店として営業や技術サポートや修理まで全部行っていますが、商流がパートナーさん経由も多いもので、展示会はエンドユーザーさんの声を聴ける機会となります。」
「来場者以外に、出展されている会社さんも私どものパートナーさんだったりするので、同じ環境で情報交換できることも出展のメリットになります。」
「展示会で入手した情報を活かして、よい製品を作っていくためのチャンスだと思っています。」

コロナの影響で展示会が中止になったこともありましたが、営業体制の変化などはありますか？

「従来、展示会でいただいた名刺は営業が全力でフォローしていましたが、最近インサイドセールスを行う部署を立ち上げ、展示会来場者やホームページの問い合わせやメルマガなどを営業と切り離してマーケティングを行っています。このような営業情報の中から、ホットなお客をすぐに営業に引継ぎ、少し時間がかかるような案件はこの部署で温めておくといった業務を行っており、丁度コロナ禍でインサイドセールスがコミュニケーションを深めたお客様の案件が、いま更り始めたと言えます。」



取締役副社長 飯塚 太一 さん



株式会社リコー

当社のイチ押し 環境製品

環境経営が高い評価を受けるリコー。グループ全体でサステナビリティ活動を推進し、環境配慮製品の開発を積極的に推進。本展示会では、フェノールフリー感熱紙、リライタブルシステム、ライナーレスラベルなど、環境保全に貢献する製品を出展している。

フェノールフリー感熱紙とは？

「欧州を中心に、ビスフェノールA (BPA)、ビスフェノールS (BPS) を発色成分に含む感熱紙を避ける動きがあります。これはラベルに触れる機会の多い方などの人体影響が懸念されているからで、当社は感熱紙に使用する発色成分を順次フェノール系材料から、その他の安全な材料に転換する取り組みを行っており、より安全性を高めた感熱紙をご提案いたします。」

ライナーレスラベル

「一般のラベルと比較して、台紙(ライナー) ゴミが発生しないのが大きな特徴です。また、印字量に合わせてラベル長を変えられるため余白のムダを出さず、同一巻径で長尺化できるので作業効率が向上します。」

リライタブル レーザーシステム

「半導体レーザーを用いたリライタブルレーザーマーカ―と専用のリライタブル レーザーメディアによって、非接触で繰り返し(ラベルの貼り剥がし不要で) 約1,000回の表示書き換えができます。5年相当の耐光性があり屋外の運用でも使用可能です。」

「ラベルプリンタからのラベル発行・貼付の手間とコストを削減、キレイな通箱で継続使用が可能となります。」



リライタブル レーザーシステム

ラベルレスサーマル

「ラベルやリボンを使用せず基材へ事前に記録層を塗布し、文字やユニークQR・バーコードなどの可変情報・個品ID情報を直接印字することが可能です。これにより、ラベルやリボンの準備・交換作業がなくなり、ラベル・リボンの経費と廃棄物を削減し、また、梱包材を統一することで在庫数の削減につながります。」

展示会について

「当社の製品を扱っているお客様が出展されることが多いのですが、その先のエンドユーザーのお話を伺えるよい機会だと思っています。自動認識展でいうと、普段お話しできない開発や調達の方ですとか、営業の方などに我々の商品をお伝えすることができます。」



IMS事業部
TM事業センター
サーマル営業部
新保 斉 さん

ワム・システム・デザイン株式会社

当社のイチ押し ArU-code (アルコード)

本展示会出展社の中でいちばん展示効率がよい会社がワム・システム・デザイン。自動掃除機に固定されたスマホのカメラが同社展示エリアを縦横無尽に動き回り、カメラが捉えたArU-codeを大型ディスプレイで表示することで読み取りの距離・角度・速さをアピールしている。ブースでは常に来場者がデモスペースを囲んだ。

展示会ではどういった点をアピールしていますか？

「ArU-codeの読み取りの精度や速度などの利点と、モノを管理するために、検品や棚卸など運用シーンをご説明して、バーコードや二次元コードなどに替わるものになればよいと考えています。」

「ArU-codeは、ARマーカ―の公開技術である<アルコマーカ―>がもとになっています。アルコマーカ―は1,000の認識パターンがありますが、当社は2つ以上のアルコマーカ―を組み合わせたものを1つのコードとして認識させる、独自のアルゴリズムによって認識パターン数を拡張しました。認識パターンは1,000,000以上あり、業務利用に適したコードとなっています。当社では2020年から本格的に販売を開始しております。」



どのような業務で使われますか？

「ArU-codeはスマホやタブレットのカメラで認識するコードで、複数をまとめて遠くから読み取ることができる、また動きながら、角度が変わっても、斜めからでも読めることが特徴で、これほど動きに強いコードは他にはないんじゃないかと思っています。」

「ArU-codeの活用シーンは、倉庫などで商品の検品を行う場合に、高い所、手が届かない所にあるモノなど、離れていても、暗い場所でも読み取ります。また、作業者が歩きながらスマホを向ければどんどん読み取っていくので、棚卸にも時間がかかりません。」

「モノの個数を調べるだけでなく、特定のものを見つけることも容易で、コードを指定すれば読み取ったときに光るようにするなど、モノと位置がわかります。モノだけでなく人の入退や作業実績の管理にも使用できます。」

読み取り可能な距離は？

「読み取るカメラの性能やズーム機能によりますが、A4サイズの大きさのコードでi-pad proで読み取れる距離は、大体12mくらいで、名刺サイズだと約3mです。」

お客様の反響はいかがですか？

「おかげさまで色々なお話をいただいています。まだ販売を開始して間もないので、検証しながら案件を進めていく段階ですが、お話をしていく中で用途の広がりを実感しています。当社の製品にご興味を持っていただく方は増えていっていると感じております。」



SC 室
池田 羽美紀 さん



BT Space 自動認識セミナー 大阪

関西製造業の活性化に向けて

「自動認識セミナー大阪」は経済産業省近畿経済局八田課長による基調講演をはじめ、5セッション・9講座が行われました。本誌では基調講演の概要を掲載します。



経済産業省近畿経済産業局産業部製造産業課長
八田 明洋 様

基調講演アジェンダ

- 関西経済の現状
- 製造業のニューノーマル
／レジリエンス・グリーン・デジタル
(2021年度版 ものづくり白書)
- 経済産業省・近畿経済局の取り組み
 - 中小企業支援
 - デジタル
 - グリーン
 - イノベーション
- 大阪・関西万博
- おまけ(行政の盲点?)

関西経済の現状

関西(=大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山、福井の2府5県) 経済の現状としては各種統計調査により、経済規模は2020年の輸出入通関額や製造業事業所数・従業員数、百貨店・スーパー販売額、製造品出荷額などで高い数値を示し、多様な地域で多様な産業が集積している。特にものづくり産業で素材、部品加工から最先端製品製造まで、川上から川下までをカバーする。(表1)

また、優れた大学、特色ある研究開発拠点が集まり、産学の連携も進んでいる。多くのノーベル賞受賞者を輩出している。

(表1) 講演資料から抜粋 (出所) 経済産業省「2019年工業統計調査 地域別統計表」

関西 製造品出荷額の全国シェア			
繊維工業 (28.3%)	化学工業 (20.6%)	なめし革・同製品・毛皮製造業 (30.3%)	鉄鋼業 (22.9%)
金属製品製造業 (22.1%)	はん用機械器具製造業 (29.0%)	電気機械器具製造業 (22.1%)	その他の製造業 (28.6%)



製造業のニューノーマル ／レジリエンス・グリーン・デジタル

2021年度版 ものづくり白書

第1章 我が国ものづくり産業が直面する課題と展望

第1節 我が国製造業の足元の状況

1. 我が国製造業の業績動向

- コロナ禍の影響も受け、製造業各企業の売上高、営業利益は引き続き減少傾向にある。
- 今後3年間の見通しも減少傾向にあり、依然として先行き不透明な状況が続く。

2. 我が国製造業の経営判断

- 設備投資額は2019年まで増加傾向だったが、2020年はコロナ禍の影響も受けた業績低迷により減少。先行き不透明な状況が続くことにより、今後も設備投資は控える傾向にある。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大以外にも、多くの外的要因が我が国製造業の事業判断に影響を及ぼすものと考えられており、これらは事前に発生や変化を想定することが難しい。

第2節 ニューノーマルでの生き残りに向けて

1. <レジリンス> 今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症は、自然災害のような局所的被害でなく、世界全体に予測不可能な形で被害をもたらした。(次頁に続く)

- サプライチェーン全体を可視化した上での準備や危機事象の内容にかかわらず、残されたリソースでの事業継続を図るための想定を着実に進めることが、今後のレジリエンス強化には不可欠となる。
- グリーンやデジタルの分野での競争力のカギを握る半導体や蓄電池、川上のマテリアルに関するサプライチェーン構築・強靱化や、経済安全保障をめぐる国際動向をリスクのひとつとして精緻に把握しておくといった対応も必要となる。

2. <グリーン> 今後の課題

- 世界各国がカーボンニュートラルに舵を切る中で、我が国としても2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指すと言。
- 2020年12月にはグリーン成長戦略を策定し、技術革新を通じて今後の成長が期待される14の重要分野ごとに実行計画を策定。加えて2兆円のグリーンイノベーション基金や研究開発税制などによって、企業の挑戦を積極的に後押し。
- サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルへの取り組みや、金融機関によるグリーンファイナンスの導入などの動きも拡大。製造事業者は、積極的な行動変容により、カーボンニュートラルを成長のカギとすることが可能に。

3. <デジタル> 今後の課題

- 各企業は、自社がバリューチェーンで担っている役割を把握しつつ、無線通信技術の活用なども含め、効率的かつ戦略的なDX投資を進めていく必要がある。
- 政府においても、人材育成の促進に向けた環境構築、DX推進支援、各種取り組みの効果を高めるための研究開発支援などにより、企業の挑戦を積極的に後押し。
- DXの取り組みと表裏一体で必要となるサイバーセキュリティ対策にも、中小企業を含めたサプライチェーン全体を巻き込みながら、官民一体で取り組んでいく。

経済産業省・近畿経済局の取り組み

コロナ禍の経済情勢に応じた的確な対応

- 中小企業・小規模事業者等の雇用・技術といった経営資源を活かし、事業価値の向上を実現するため、事業者に寄り添いながら事業再構築、継承・再生、生産性向上の支援や取引適正化などを進めていく。
- コロナ禍を経て、新たな付加価値を中期的に獲得し、成長を続けられる産業構造の構築。

関西の動き

新たなものづくりのプロセス導入、ロボット化による生産性の向上、社会課題解決に資する新たなモビリティなどへのニーズの高まりと取り組むプレイヤーとのネットワークリング。

関西の動き

電池メーカー、関連部材メーカー、装置メーカーの集積。産業部門の中で、特にCO₂排出量の多い鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の集積。

Cグリーン(水素)

関西の動き

素材から機械、生活用品まで多様な産業集積があり、特にライフ関連産業に強み。2025年大阪・関西万博を控え、世界中から注目を集めるチャンスに。

Dイノベーション

A 中小企業支援

(以下、基調講演の中から支援策に関連する内容を抜粋)

- 新型コロナウィルス感染症で影響を受ける事業者の皆様へ
【内容】 経営相談、資金繰り支援、経営環境の整備、設備投資・販路開拓支援、税・社会保険・公共料金
▶ ミラサポplus (中小企業向け補助金・総合支援サイト)

- 日本政策金融公庫を通じた資金繰り支援
令和3年度補正予算額 1,403億円
▶ 中小企業庁 金融課

- 令和3年度補正予算 事業復活支援金
予算額 2兆8,032億円
▶ <https://jigyoku-fukkatsu.go.jp/>

- 中小企業等事業再構築促進事業
令和3年補正予算額 6,123億円
▶ 中小企業庁 技術・経営革新課

- ものづくり等高度連携・事業再構築促進事業
令和4年度予算案額 10.2億円 (新規)
▶ 近畿経済局 地域経済部 産業技術課

- 令和3年度補正予算 中小企業生産性革命推進事業
予算額 2,001億円
▶ 中小機構ホームページ

- 事業継承・引継ぎ支援事業
令和4年度予算案額 16.3億円
▶ 近畿経済局 産業部 中小企業課

- 成長型中小企業等研究開発支援事業
令和4年度予算案額 104.9億円
▶ 近畿経済局 地域経済部 産業技術課

B デジタル (DX)

近畿経済局 関西企業フロントラインNEXT Vol.21より

- DXへのアプローチ
 - ・ DXの対応は一足飛びに実現しない
 - ・ 即効性と付加価値向上の2つの側面がある
 - ・ 企業変革に必要な余白を生み出すために、まずはデジタル化の対応を図り、効率性を追求 (デジタル化こそがすべてではない)

- 付加価値向上 (イノベーション創出) のプロセス
 - ・ 既存のデジタル技術×既存リソースに、変革を掛け合わせることで、イノベーション (付加価値) の創出が実現

- DX成功への鍵
 - ・ 人材不足など経営課題の解決法の一つとして、取り組みやすい部分から着実に
 - ・ 外部リソースの活用と社内人材の育成
 - ・ 社内理解の醸成は必須
 - ・ 経営者の確固たるビジョンや変革をもたらす覚悟
 - ・ 従業員一人ひとりが自分事として取り組むことのできる社内体制や推進リサイクルの構築

- 楽しみDXステップ講座情報ナビ
 - ・ 誰でも無料でデジタルスキルを学ぶことができるオンライン講座41事業者102講座を掲載
 - ・ AIやデータサイエンス、クラウド、IoTといったカテゴリやレベル (入門・基礎・上級) から絞込検索可能

- 関西DX推進プラットフォーム事業
 - ・ 関西地域におけるDXを推進する枠組みとして、ベンダやユーザー企業、支援機関が参画する関西DXプラットフォームを立ち上げ、DXに関する情報発信、セミナー・ワークショップの開催、専門家派遣、ベンダ・ユーザー企業間のマッチングなどに加え、DXのビジネスモデル実証支援を通じて、モデルケースの創出、地域への横展開を目指し、ユーザー企業のDX実現をサポートする
 - ▶ 近畿経済局 地域経済部 次世代産業・情報政策課

- Kansai-3D実用化プロジェクト
 - ・ グローバルで加速化する3D積層造形による量産化に対応するため、2019年1月にKansai-3Dプロジェクトを発足。産学官の広域ネットワークを構築し様々な分野での3D積層造形を克応した新たなものづくりの変革モデルの創出を支援。プロジェクト会員企業は約900社。
 - ・ 2020年には、3D実用化に挑戦する全国38社をモデルとして、3D積層造形によるものづくりプロセスの実証事業を実施。 casting、鍛造、切削、金型、溶接、樹脂等の各業界モデルとなる企業の3D製造プロセスに必要なデザイン・設計、3D 造形、評価までの全プロセスの導入の検証を支援し、その成果の横展開を図った。
 - ▶ 近畿経済局 地域経済部 次世代産業・情報政策課

- 中小企業のロボット導入促進・スマート化支援プロジェクト
 - ・ 製造現場の生産性向上を図るためには、産業用ロボットAI (人工知能) やIoTなどの先端技術を利用したデジタルデータの活用によるスマート化が必要
 - ・ スマート化構築やそのサービスモデルの開発をめざす中小企業を対象に、課題整理・事業計画の作成支援や、先端技術導入に向けた実証 (F/S試作導入) 支援を実施。
 - ・ 潜在的な課題意識を持つ企業を対象に、事例のケーススタディや要求仕様作成のためのワークショップを開催。このほか、スマート化の普及を図るため、事例紹介セミナーや先端工場の訪問等を実施。
 - ▶ 近畿経済局 地域経済部 次世代産業・情報政策課

C グリーン (水素)

グリーン成長戦略 (概要)

- 温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代は終わり、成長の機会と捉える時代に入っている。

- 研究開発方針や経営方針の転換など、ゲームチェンジが始まっている。この流れを加速すべく、グリーン成長戦略を推進する。

- イノベーションを実現し、革新的技術を社会実装する。これを通じ、2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO₂排出削減にとどまらない国民生活のメリットも実現する。

- グリーンイノベーション基金事業
▶ NEDOカーボンニュートラル特設ページ

- 省エネルギー投資促進支援事業費補助金
令和3年度補正予算額 100億円
▶ 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部

- 令和4年度予算案 先進的エネルギー投資促進支援事業補助金
令和4年度予算案額 253.2億円
▶ 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部

- 令和4年度予算案 住宅・建築物需要一体型省エネルギー投資促進事業
令和4年度予算案額 80.9億円
▶ 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部

D イノベーション

関西イノベーションイニシアティブ (KSII)

- 都道府県域を超えた広域な地域ブロックに、大学と公的研究機関・産業支援機関、企業、経済団体、金融機関、ベンチャーキャピタル、地方自治体などによるネットワーク創設を支援し、産学融合による研究開発・事業創出の取り組みを加速化するための産学融合先導モデル拠点創出プログラムに、近畿圏の取り組みとして採択。

- 関西イノベーションイニシアティブは、ゼブラ企業 (持続可能な成長により地域の社会課題を解決するベンチャー企業) の創出をめざし、大学発シーズマッチングによる産学協創の取り組みや、大学と産業界をつなぐイノベーター人材育成のプログラム組成などに取り組む。

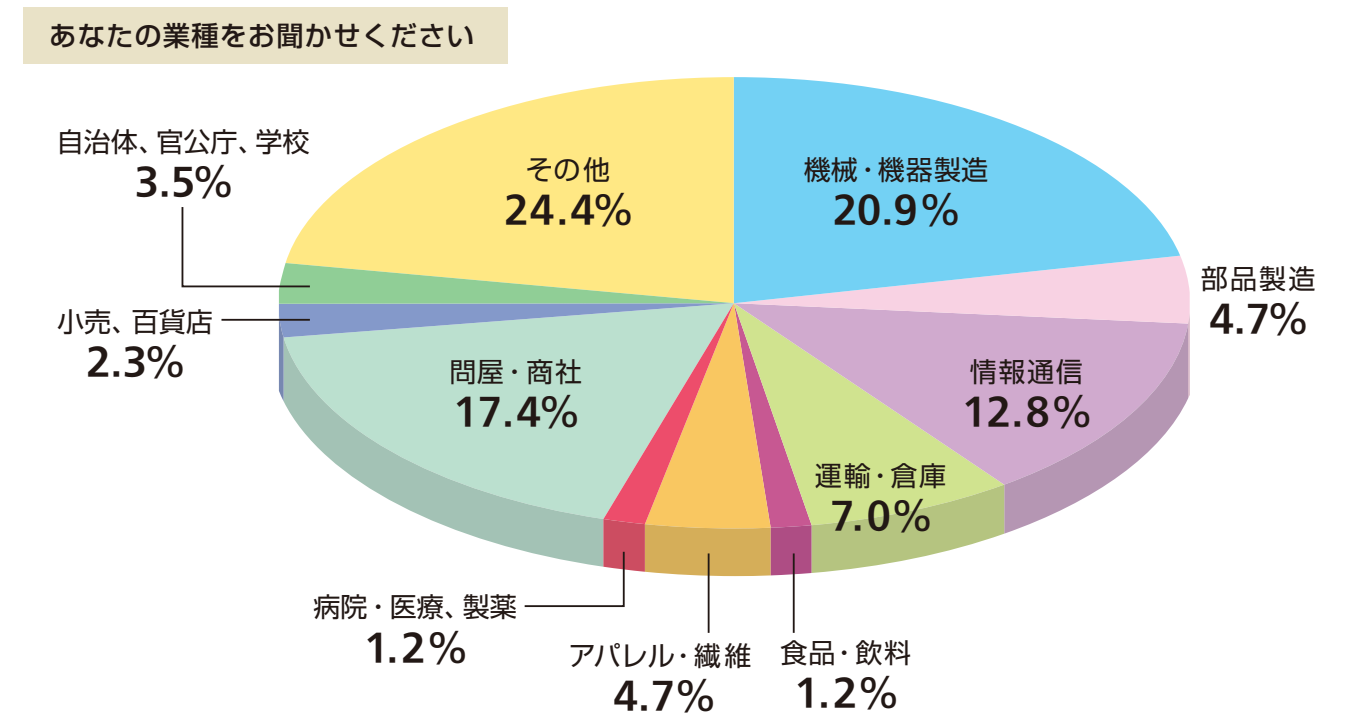
八田課長の講演は、上記のほか、2025年日本国際博覧会 (略称 大阪・関西万博) の紹介と、「おまけ」として、国の支援 (中小企業支援施策) は様々な種類 (形) が存在すること、補助金のプロセス=知る→申請する→採択される→事業の実施→補助金の交付、などについて説明され、基調講演が終了しました。

2月24日(木)	S1	無料	自動認識技術の最新動向と2020年市場調査報告
	10:00 11:00	自動認識技術の最新動向と2020年市場調査報告 アイニックス(株) 代表取締役 平本 純也 氏 バーコード、二次元シンボル、RFID、バイオメトリクスなどの自動認識技術の最新動向と関連した市場調査について講演します。	
	S2	無料	基調講演
	11:30 12:30	関西製造業の活性化に向けて 経済産業省 近畿経済産業局 製造産業課長 八田 明洋 氏 近畿経済産業局は、近畿2府5県を担当する地域ブロック機関として、経済産業省の制作を実施しています。講演では、関西製造業の活性化に向けて、経済産業省の施策や近畿経済産業局が推進している独自プロジェクトを紹介します。	
	S3	有料	医療現場での活用事例
	13:30 14:20	働き方改革を見据えた医療におけるトレーサビリティの普及と展開 市立伊丹病院 事務局 主幹 中雄 真一 氏 当院では、医療機関におけるトレーサビリティシステムについて普及・展開を図るべく、10年以上前から導入し、運用しています。急速に進む働き方改革を見据え、システム導入に向けた様々な課題について解決のヒントとなるよう、当院での具体的な取り組みについて紹介します。	
	14:30 15:20	やってみて分かった、RFIDの問題と対応策(阪大病院手術部) 小西医療器(株) ソリューション事業本部 次長 宮地 秀之 氏 ダイオーエンジニアリング(株) ICTソリューション部 部長 井川 太郎 氏 2019年10月、医療の安心安全と効率化を目的に、大阪大学医学部附属病院の手術部でRFIDを使った手術管理システム「PrecisionID」を導入しました。2021年4月の本稼働までに、いろいろな問題にぶち当たり、どのように対応していったかを紹介します。	

2月25日(金)	S4	無料	第23回自動認識システム大賞 受賞企業講演
	10:00 10:30	UHF帯バッテリーレス電子ペーパータグを活用した工程間搬送システム (株)デンソーウェーブ エッジプロダクト事業部技術2部技術2室 主任 竹本 宗貢 氏 富士通セミコンダクターメモリソリューションと共同開発した「UHF帯バッテリーレス電子ペーパータグ」を"かんばん"として用いることで紙レス・人作業レスの通い箱管理を実現。更にUHF帯RFIDの特長を活かし通い箱の所在管理、製品搬送管理の効率化を促進。	
	10:40 11:10	日本酒の正規品流通経路管理のための、二次元コードとRFIDハイブリッド運用 高桑美術印刷(株) 商品開発部 専門部長 三納 哲也 氏 黒龍酒造(株) 企画営業部 部長 荻下 喜行 氏 近年、日本酒業界では適切な温度帯での品質管理等がなされていない非正規品が多く出回ようになっており、その抑止のために、商品キャップ天面の二次元コードと外装ケースのRFIDタグのハイブリッド運用により、個品からの流通経路の特定を実現した導入事例を紹介します。	
	11:20 11:50	Deep Learningを使った物流仕分けソータ上の単品識別システム ジック(株) IL営業部 主任 野口 純吾 氏 トレーサーター上、またはコンベヤ上に投入されたワークについて、単品アイテムなのか、複数アイテムなのかを画像認識の技術により判別し、事前に誤仕分けを防ぐ為のシステムのご紹介。製品開発までの背景、導入のメリット等も合わせてお話させていただきます。	
	S5	有料	自動認識技術を活用した最新事例(食品分野)
	13:30 14:20	RFIDを活用したネットスーパーにおける食品ロス削減実証実験 (株)日本総合研究所 事業開発・技術デザイン戦略グループ マネジャー 和田 美野 氏 2020年度に経済産業省事業を活用し実施した実証実験のご紹介。RFIDを利用することで取得できる流通情報を活用した消費者への価値提供を試行。また、流通情報や購買情報を一元管理し、それらを活用した家庭内の食品ロス削減を目的としたサービスの提供を実施。	
	14:30 15:20	農産物の定温物流管理事例とフード市場における自動認識技術活用事例紹介 (株)サトー グローバル営業本部 フード市場戦略部 部長 岡 友哉 氏 ① 温度ロガー機能付きデュアルRFIDラベルによる農産物の定温物流管理事例紹介(自動認識システム大賞事例紹介) ② フードサプライチェーンにおける自動認識技術活用事例 (食品業界でのRFIDをはじめとする自動認識技術を活用したソリューション活用事例紹介)	

第19回 自動認識総合展 大阪の来場者にe-mailによるアンケートに協力いただきました。
アンケートによると、来場者の40%は初めての来場で、2回目は13.3%、3回以上は46.7%でした。地域は

大阪府76.4%、京都府5.9%、兵庫県5.0%などで、全体の89.1%が近畿エリアからの来場でした。
次回(2023年)の来場については、93.3%が来場する、6.7%が来場しない、との回答でした。



ご興味がある分野をお答えください(複数回答可)	本展へのご来場の目的は?(複数回答可)
バーコード製品・技術	53.5%
RFID 製品・技術	80.0%
生体認証製品・技術	24.4%
カード製品・技術	12.2%
画像認識・マシンビジョン	42.2%
センサネットワーク関連	17.8%
モバイルウェアラブル製品・技術	23.3%
ウェアラブル製品・技術	26.7%
その他製品・技術	4.4%

【ソリューション】(複数回答可)	何件のブースを見学しましたか
物流ソリューション	45.6%
流通ソリューション	26.7%
製造ソリューション	32.2%
セキュリティソリューション	13.3%

最新技術情報収集	66.7%
自動認識業界の動向調査のため	38.9%
実物を見てみたい	30.3%
製品・ソリューションの説明を聞くため	30.3%
問題解決する製品・ソリューションを求めて	21.1%
システム構築のヒントを求めて	14.4%
セミナーに参加するため	14.4%
製品を探す・比較するため	11.1%
その他	3.3%

10社以上	6.7%
5〜9社	60.0%
1〜4社	33.3%



自動認識システム大賞は、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを表彰するもので、自動認識システム大賞、優秀賞ほか、各賞に賞状・副賞が授与されます。

大賞	1作品（賞状、賞金30万円）	産経新聞社賞	1作品（賞状、賞金）
優秀賞	2作品（賞状、賞金10万円）	特別賞*	1作品（賞状、賞金）

※新規性、導入効果、社会的価値、実績等の審査項目において、秀でたものがあれば対象となります。



自動認識システム大賞 応募要項

■募集対象

自動認識に関する技術やシステムで、国内で実用されている、または実用の目的が立っているもの。海外で構築されたシステムは国内の導入実績があるもの。日本国内の企業、団体、個人でご応募ください。

■応募方法

以下の項目について指定の申請書に記述して、当協会にお送りください。（容量5MB以下はe-mail、以上はCD-Rで送付）

1. 技術分野：バーコード、RFID、画像認識、生体認証など
2. 申請テーマ：簡潔で分かりやすい名称を30文字以内で記述
3. 申請会社名：会社・団体、担当者、所在地、連絡先など
4. 共同申請会社：共同申請会社・団体がある場合、応募1作品につき、最大3社・団体まで
5. ユーザー名：会社・団体、担当者、連絡先など
公表できない場合は業界を明らかにすること
6. システム概要：技術やシステムの概要を300文字以内で記述
7. 申請内容詳細：新規性／技術、市場、企画などの見地で記述
導入効果／経済面、品質面、利便性を記述
社会的価値／公共性、環境、社会貢献度を記述
実績／導入実績、導入予定等を記述
8. 機器、システム構成：写真や動画、図表を使って記述
9. 補足資料：優位性を説明する資料があれば同封

■募集条件

受賞者は、当協会が設定するセミナーなどで、プレゼンテーションを行っていただきます。また、当協会が出版、寄稿する際に、受賞作品の掲載協力をお願いします。

■日程

●募集開始 2022年3月1日（火）

●締め切り 2022年5月31日（火）

審査：予選審査及び最終審査を行います。
予選審査を通過した申請者は、最終審査でプレゼンテーションを行っていただきます。（但し、交通費は自己負担をお願いします）

結果発表：2022年7月29日（金）
当協会Webサイトほかで公表します。

表彰式：2022年9月14日（水）※第24回自動認識総合展会場にて開催予定

■お問い合わせ

（一社）日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651

✉ system-award2022@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

自動認識システム大賞は、JAISAによる自動認識の普及・啓発のための事業です。



多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、提供する人・利用する人に正しく学び習得してもらえるための技術者認定資格です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習：オンライン形式（再視聴あり）	試験：集合形式（全国複数会場）
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習：集合形式（JAISA会議室）	試験：集合形式（JAISA会議室）

※今年度から、自動認識基本技術者の資格認定講習・試験の実施方法を変更します。
RFID専門技術者資格認定講習・試験は従来通りの方法で実施します。



自動認識技術者資格認定講習・試験 概要

■目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対処ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格

自動認識技術の基本となる「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。
対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格

「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」の各科目の専門的な知識を習得します。
対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。
また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。
※希望により非公表も有。



■講習・試験日程

●第48回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	オンライン講習		オンライン講習（再視聴）		試験（会場集合）
日程	7月5日（火）	7月6日（水）	7月7日（木）	7月8日（金）	7月9日（土）
受講科目	標準化	バーコード	標準化	バーコード	東京、大阪、仙台（受験4科目）
	RFID	バイオメトリクス	RFID	バイオメトリクス	

●第49回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	オンライン講習		オンライン講習（再視聴）		試験（会場集合）
日程	11月15日（火）	11月16日（水）	11月17日（木）	11月18日（金）	11月19日（土）
受講科目	標準化	バーコード	標準化	バーコード	東京、名古屋、福岡（受験4科目）
	RFID	バイオメトリクス	RFID	バイオメトリクス	

●第17回RFID専門技術者資格認定講習・試験

	講習（会場集合）	試験（会場集合）
日程	2023年2月2日（木）～4日（土） 3日間	2023年2月18日（土）

※会場は JAISA 会議室（東京千代田区）

■お問い合わせ

（一社）日本自動認識システム協会 事務局

Phone 03-5825-6651

✉ license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

自動認識技術者資格認定講習・試験は、JAISAによる自動認識の普及・啓発のための事業です。

